2017 年 4 月 28 日

岡山県感染症週報 2017 年 第 16 週（4 月 17 日～4 月 23 日）

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

【お知らせ】 次週、2017 年第 17 週(4/24～4/30)の感染症週報は、第 18 週(5/1～5/7)とともに、2017 年 5 月 12 日(金)にホームページへ掲載いたします。

◆2017 年 第 16 週（4 / 17 ～ 4 / 23）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 14 週 5 類感染症 梅毒 1 名（30 代 男）
第 15 週 5 類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名（70 代 男）
梅毒 1 名（70 代 女）
第 16 週 2 類感染症 結核 1 名（30 代 女）
5 類感染症 梅毒 1 名（40 代 男）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

○インフルエンザは、県全体で 139 名（定点あたり 2.32 → 1.65 人）の報告があり、前週よりわずかに減少しました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 67 名（定点あたり 1.11 → 1.24 人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。

○感染性胃腸炎は、県全体で 431 名（定点あたり 5.67 → 7.98 人）の報告があり、前週より増加しました。

【第 17 週 速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 4 施設でありました（4 月 24 日～26 日）。

---

1. インフルエンザは、県全体で 139 名（定点あたり 2.32 → 1.65 人）の報告があり、前週よりわずかに減少しました。県全体の報告数は、減少してきているものの、依然として患者の発生はつづいています。岡山県は、ひきつづき『インフルエンザ注意報』を発令し、広く注意を呼びかけています。地域別では、倉敷市（2.75 人）、真庭地域（2.67 人）、備中地域（1.92 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「**インフルエンザ週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『2016/2017 年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ注意報」発令中！』をご覧ください。
2. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 67 名（定点あたり 1.11 → 1.24 人）の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して、高いレベルで推移しています。地域別では、倉敷市（1.82 人）、岡山市（1.79 人）、美作地域（1.67 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多い感染症で、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
3. 感染性胃腸炎は、県全体で 431 名（定点あたり 5.67 → 7.98 人）の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭地域・美作地域（16.50 人）、岡山市（8.21 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「**感染性胃腸炎週報**」及び岡山県感染症情報センターホームページ『2016/2017 年感染性胃腸炎情報』をご覧ください。

【お知らせ】

ゴールデンウィークに海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

海外には、通常日本国内に存在しない感染症が多くあります。
海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です。

ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について（厚生労働省）
ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆さまへ！（厚生労働省検疫所）
麻しんについて（厚生労働省）
海外渡航のためのワクチン（厚生労働省検疫所）

流行の推移と発生状況

	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↘	★	RSウイルス感染症	↓	★
咽頭結膜熱	→	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↗	★★★★	水痘	↑	★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↗	★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	↓		流行性角結膜炎	↘	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	↑	＊感染性胃腸炎（ロタウイルス）については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少

大幅：前週比100%以上の増減　　増加･減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白：発生なし　★：わずか　★★：少し　★★★：やや多い　★★★★：多い　★★★★★：非常に多い

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

これからの季節、レジャーや山菜採りなど、野外で活動する機会が増えます

フタトゲチマダニ
岡山県環境保健センター

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋（3～11 月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディートやイカリジンを含むもの）を噴霧しましょう。
（虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）
◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

◎容易に取り除くことができる場合は、すぐに取り除いてください。その後、2 週間程度は、体調の変化に注意してください。なお、取り除いたマダニは、保存しておいてください。
◎容易に取り除くことができない場合は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。

【症状がでたとき】

◎野外活動の後、数日から 2 週間程度のうちに発熱･発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。
また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

★★ くわしくは、こちらへ ★★

⇒ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A （厚生労働省）
⇒ マダニ対策、今できること （国立感染症研究所）

2017 年 4 月 28 日

インフルエンザ週報　2017 年 第 16 週 （4 月 17 日 ～ 4 月 23 日）

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

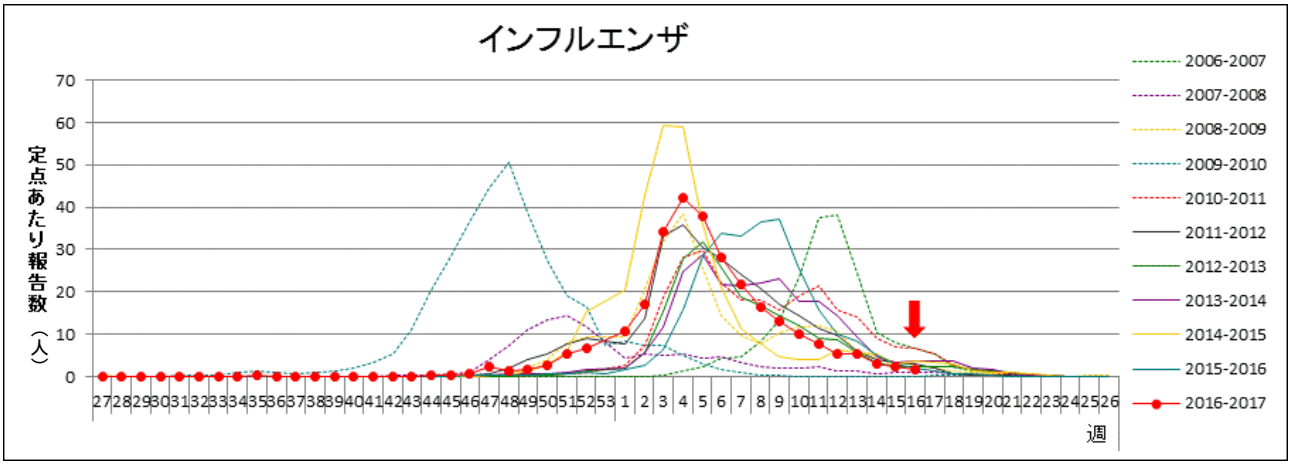
【お知らせ】　次週、2017 年第 17 週(4/24～4/30)のインフルエンザ週報は、第 18 週(5/1～5/7)とともに、2017 年 5 月 12 日(金)にホームページへ掲載いたします。

➢ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 139 名（定点あたり 1.65 人）の報告がありました（84 定点医療機関報告）。
○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 7 施設でありました。
○インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

【第 17 週　速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 4 施設でありました（4 月 24 日～26 日）。



※　インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 139 名（定点あたり 2.32 → 1.65 人）の報告があり、前週よりわずかに減少しました。地域別では、倉敷市（2.75 人）、真庭地域（2.67 人）、備中地域（1.92 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。多くの地域で患者が減少していますが、真庭地域（1.33 → 2.67 人）では、前週より増加しました。

県全体の報告数は減少してきているものの、第 17 週（4/24～）には、学校等の臨時休業が報告されるなど、依然として患者の発生は継続しています。そのため、岡山県はひきつづき『インフルエンザ注意報』を発令し、広く注意を呼びかけています。『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みでは、マスクを着用する』『十分な睡眠をとる』など、感染予防に努めてください。また、症状のある方は早めに医療機関を受診しましょう。

インフルエンザ Q&A（厚生労働省）
平成 28 年度　今冬のインフルエンザ総合対策について（厚生労働省）

◆インフルエンザは、まだ流行がつづいています。ひきつづき感染予防に努めましょう。

【 予　防 】

* 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
* 人混みでは、マスクを着用しましょう。
* 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
* 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度（50～60%）を保ちましょう。

【 かかったかな? という時には 】

* 早めに医療機関を受診しましょう。
* 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。
* 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。

1.　地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	**患 者 数**	**139**	↘	備　中	患 者 数	23	↘
	定点あたり	**1.65**			定点あたり	1.92	
岡山市	患 者 数	37	↘	備　北	患 者 数	7	↓
	定点あたり	1.68			定点あたり	1.17	
倉敷市	患 者 数	44	↘	真　庭	患 者 数	8	↑
	定点あたり	2.75			定点あたり	2.67	
備　前	患 者 数	11	→	美　作	患 者 数	9	↓
	定点あたり	0.73			定点あたり	0.90	

【記号の説明】 前週からの推移　↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↓：大幅な減少　↘：減少

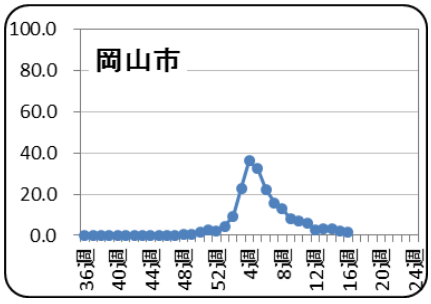
大幅：前週比 100%以上の増減　　増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

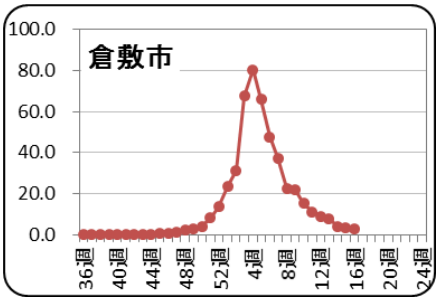
インフルエンザ感染症マップ

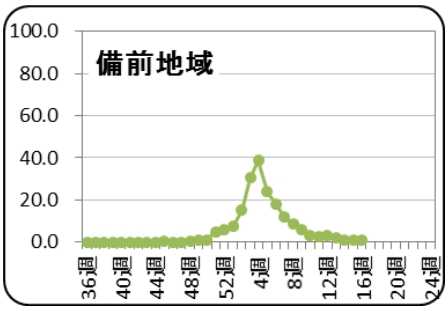
＜インフルエンザ発生レベル 基準＞

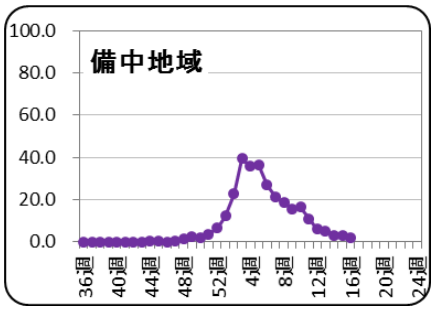
レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

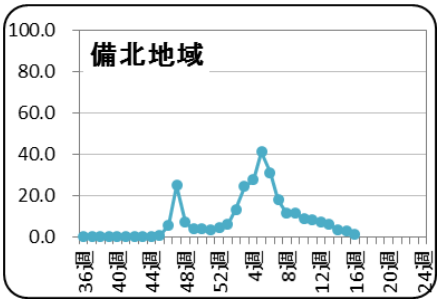
レベル1	報告なし
基準値	基準値
0＜ 10 未満	0

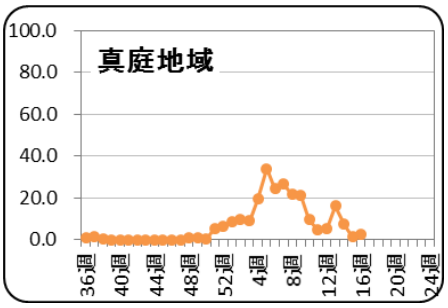


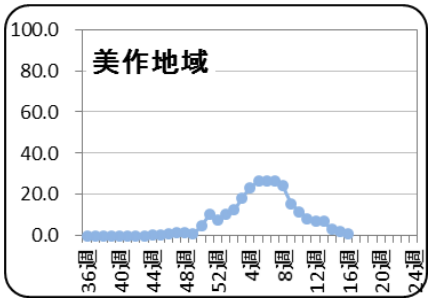


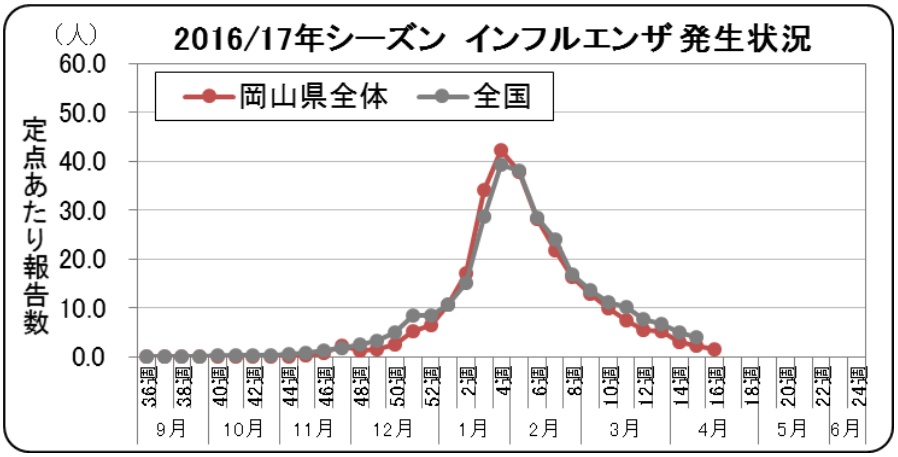










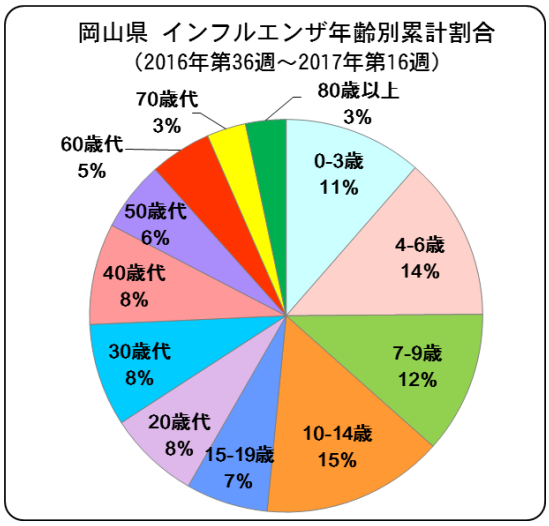


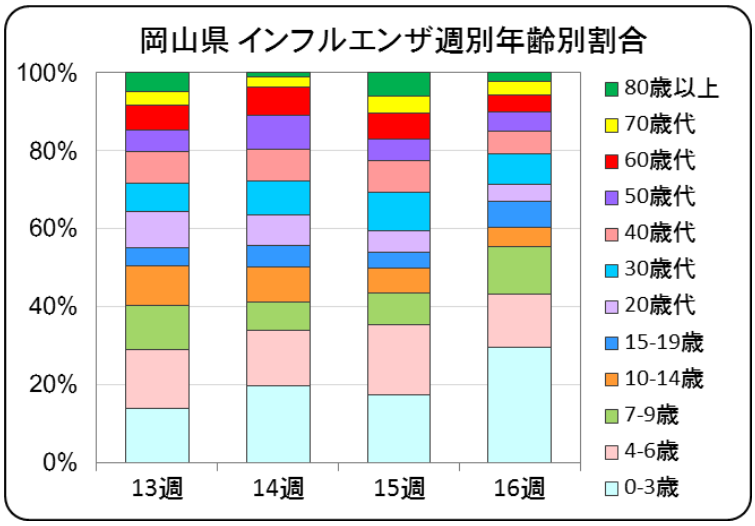
全国集計第 15 週（4/10～4/16）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 3.98 人となり、前週（5.06 人）より減少しました。都道府県別では、沖縄県（9.81 人）、新潟県（8.27 人）、宮崎県（8.14 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、3 県で前週よりも増加がみられました。

インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）

2.　年齢別発生状況

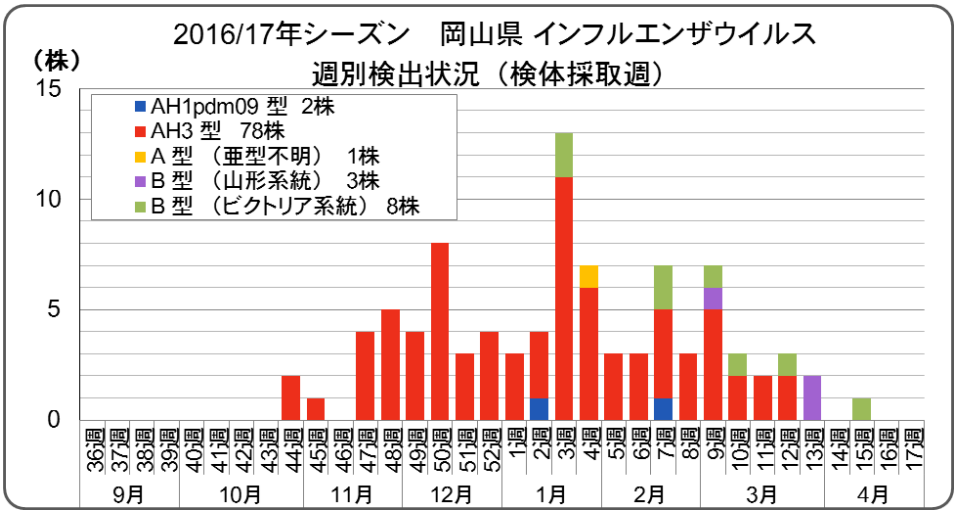
今シーズンの年齢別累計割合は、10－14 歳 15%、4－6 歳 14%、7－9 歳 12% の順で高くなっています。週別年齢別割合をみると、0－3 歳の割合が前週より高くなっています。





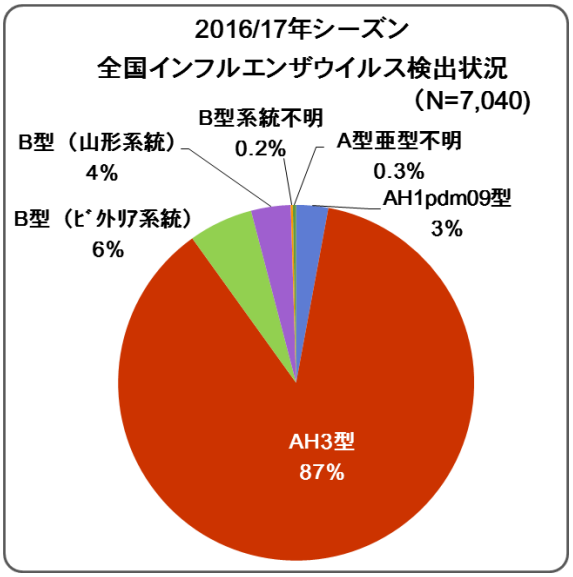
3.　インフルエンザウイルス検出状況

第 16 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、ありませんでした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは 92 株で、その内訳は、AH3 型 78 株（85%）、B 型 11 株〔ビクトリア系統 8 株・山形系統 3 株〕（12%）、AH1pdm09 型 2 株（2%）、A 型（亜型不明）1 株（1%）となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型 87%、B 型 10%〔ビクトリア系統 6%・山形系統 4%〕、AH1pdm09 型 3% の順となっています。

（2017 年 4 月 21 日現在）



インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）

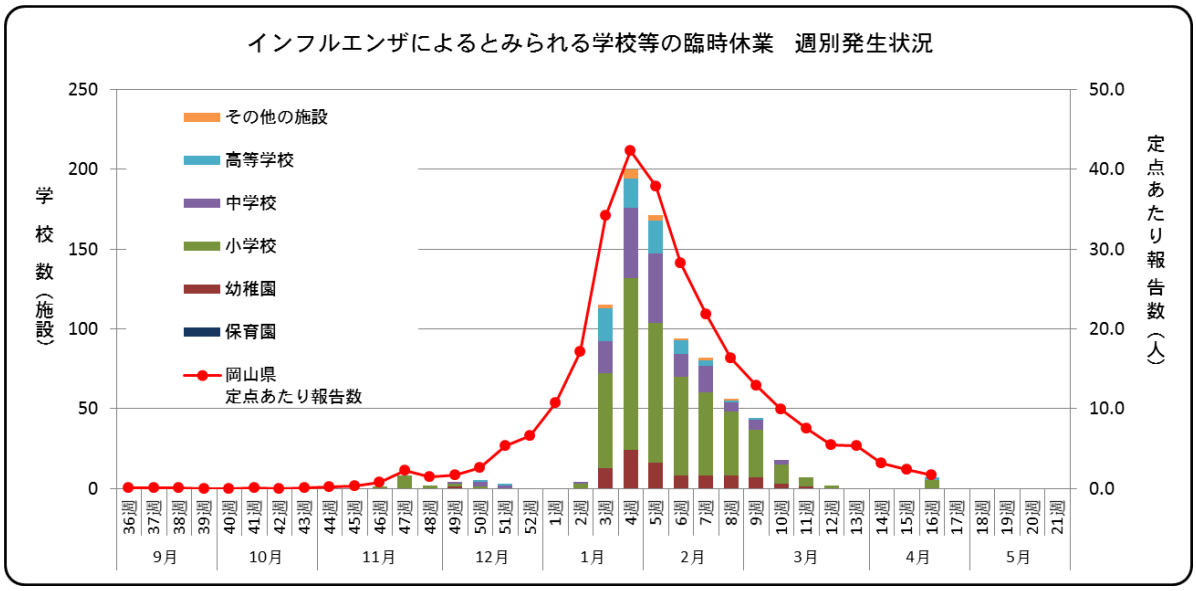
4.　インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 7 施設でありました。

【第 16 週　臨時休業施設数】

▽岡山市　2　▽倉敷市　1　▽津山市　1　▽浅口市　1

▽鏡野町　1　▽勝央町　1



1）有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

＊地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名＊	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	**80**	**12411**	**72**	**9425**	**7**	**824**	**0**	**13**	**1**	**202**	**6**	**609**	**H28.11.2**
岡山市	33	4549	28	3380	2	280	0	4	0	31	2	245	H28.12.12
倉敷市	12	3166	12	2461	1	202	－	－	0	22	1	180	H28.11.29
備前地域	0	1555	0	1235	0	112	0	1	0	41	0	70	H28.12.12
備中地域	11	1503	11	1139	1	102	0	1	0	42	1	59	H28.11.2
備北地域	0	587	0	403	0	43	0	4	0	21	0	18	H28.11.21
真庭地域	0	150	0	120	0	18	－	－	0	12	0	6	H29.1.16
美作地域	24	901	21	687	3	67	0	3	1	33	2	31	H28.11.16

2）臨時休業施設数の内訳

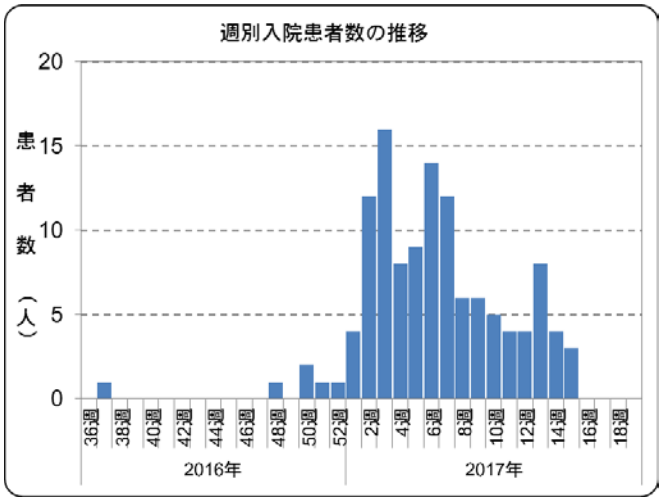
第 16 週：7 施設　　累計：824 施設

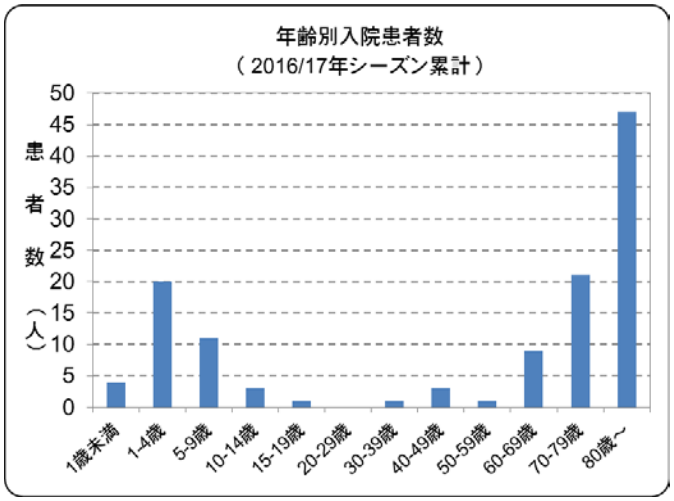
	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	**－**	**－**	**0**	89	**5**	481	**0**	160	**2**	79	**0**	15

5.　インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告は、ありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。





【2016 年 9 月 5 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1 歳未満	1～4 歳	5～9 歳	10～14 歳	15～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～79 歳	80 歳以上	計＊
入院患者数	**4**	**20**	**11**	**3**	**1**		**1**	**3**	**1**	**9**	**21**	**47**	**121**
ICU 入室 ＊			2								1	1	4
人工呼吸器の利用 ＊													
頭部 CT 検査(予定含) ＊		1	3					1		2	4	13	24
頭部 MRI 検査(予定含) ＊		3	3								1	2	9
脳波検査（予定含）＊		1	2										3
いずれにも該当せず	4	16	8	3	1		1	2	1	7	17	34	94

＊　重複あり

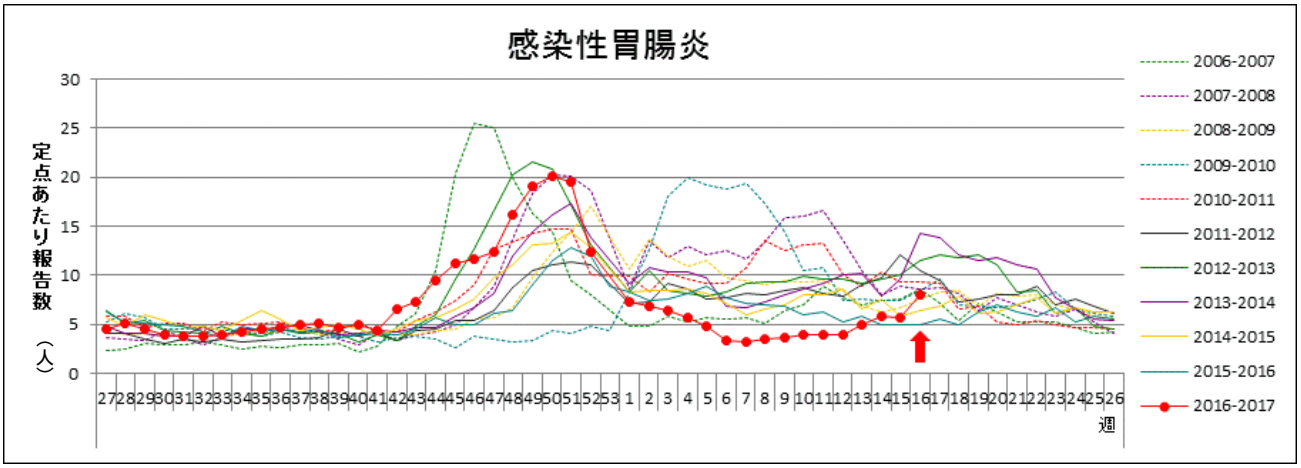
2017 年 4 月 28 日

感染性胃腸炎週報　2017 年 第 16 週　（4 月 17 日 ～ 4 月 23 日）

【お知らせ】　次週、2017 年第 17 週(4/24～4/30)の感染性胃腸炎週報は、第 18 週(5/1～5/7)とともに、2017 年 5 月 12 日(金)にホームページへ掲載いたします。

➢ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で 431 名（定点あたり 7.98 人）の報告がありました（54 定点医療機関報告）。

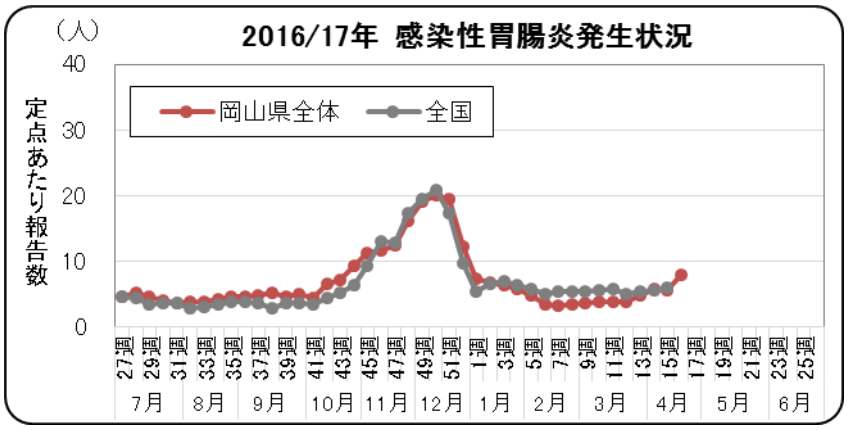


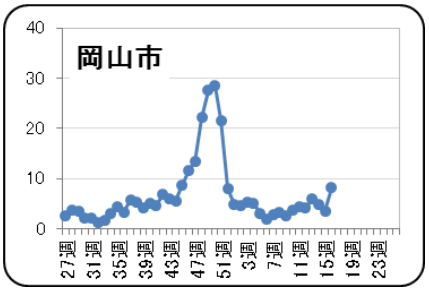
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

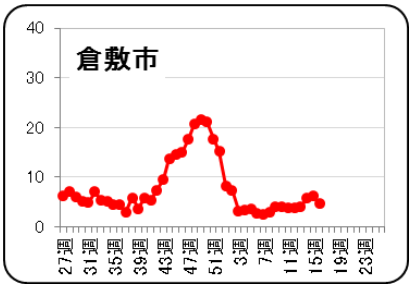
感染性胃腸炎は、県全体で 431 名（定点あたり 5.67 → 7.98 人）の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭地域・美作地域（16.50 人）、岡山市（8.21 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。倉敷市を除く全ての地域で患者が増加しており、特に真庭地域（5.50 → 16.50 人）では、大きく増加しました。

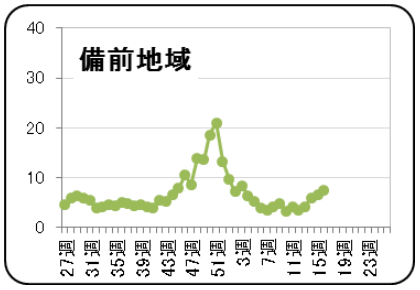
冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

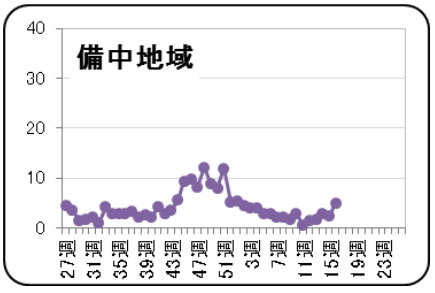
◆地域別･年齢別発生状況

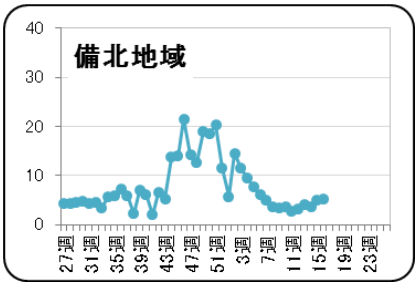


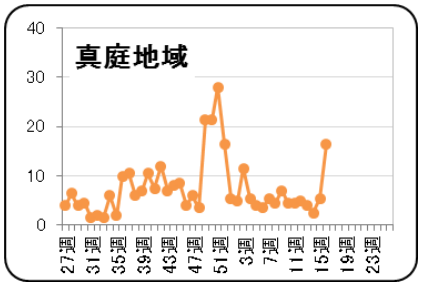


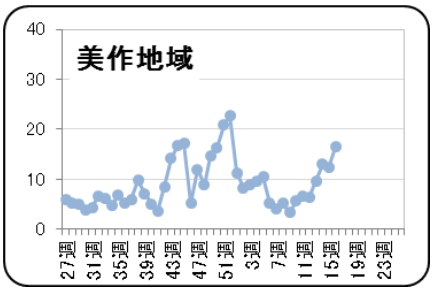


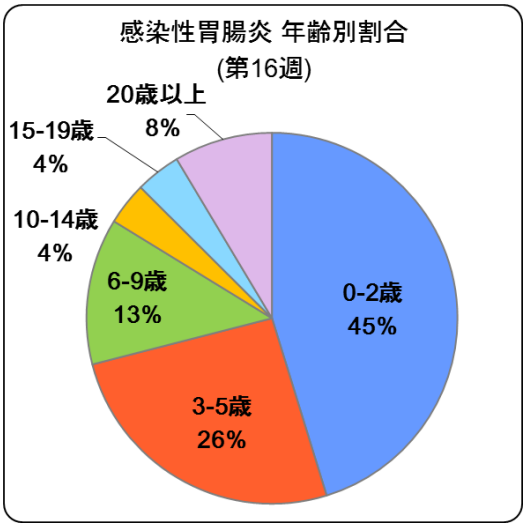


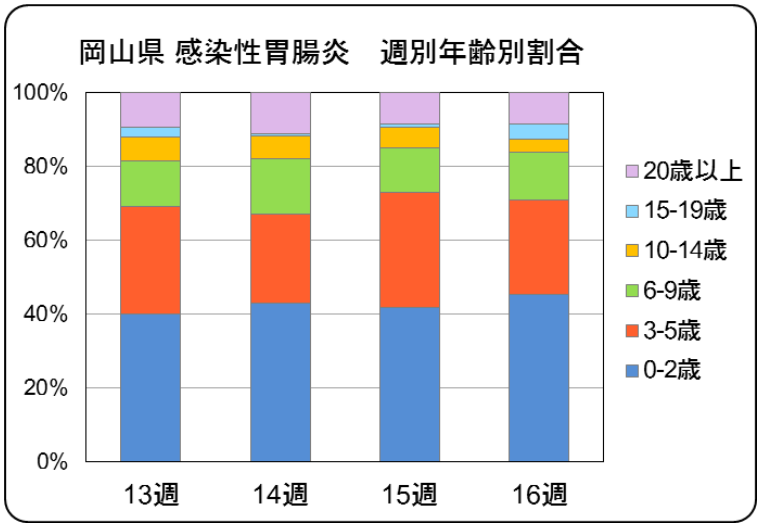












第 16 週年齢別割合では、0－2 歳 45%、3－5 歳　26%、6－9 歳 13% の順となっており、5 歳以下の乳幼児が全体の 71% を占めています。

例年 3～5 月には、2 歳以下の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状はおう吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。おう吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

ロタウイルスに関する Q&A（厚生労働省）

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. 最も大切なことは、手を洗うことです。

排便後や、調理･食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で 1 分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（※家庭用塩素系漂白剤でも代用可）での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を 85～90℃で 90 秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。

ノロウイルスに関する Q&A（厚生労働省）

ノロウイルス感染症とその対応・予防（家庭等一般の方々へ）（国立感染症研究所）

保健所別報告患者数 2017年 16週(定点把握)　(2017/04/17～2017/04/23)　2017年4月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	139	1.65	37	1.68	44	2.75	11	0.73	23	1.92	7	1.17	8	2.67	9	0.90
RSウイルス感染症	3	0.06	–	–	2	0.18	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
咽頭結膜熱	21	0.39	6	0.43	1	0.09	1	0.10	7	1.00	–	–	–	–	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67	1.24	25	1.79	20	1.82	–	–	6	0.86	6	1.50	–	–	10	1.67
感染性胃腸炎	431	7.98	115	8.21	53	4.82	75	7.50	35	5.00	21	5.25	33	16.50	99	16.50
水痘	6	0.11	3	0.21	–	–	3	0.30	–	–	–	–	–	–	–	–
手足口病	15	0.28	12	0.86	3	0.27	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	2	0.04	–	–	2	0.18	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発疹	30	0.56	14	1.00	9	0.82	2	0.20	2	0.29	–	–	1	0.50	2	0.33
百日咳	1	0.02	–	–	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	5	0.09	–	–	4	0.36	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
流行性耳下腺炎	24	0.44	13	0.93	9	0.82	1	0.10	–	–	–	–	1	0.50	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	8	0.67	1	0.20	6	1.50	–	–	1	1.00					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	–	–					–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	9	1.80	–	–	–	–					9	9.00	–	–	–	–

(– : 0 or 0.00)　(空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 16(発生レベル設定疾患) (2017/04/17～2017/04/23) 2017年4月27日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	139	1.65	37	1.68	44	2.75	11	0.73	23	1.92	7	1.17	8	2.67	9	0.90
咽頭結膜熱	21	0.39	6	0.43	1	0.09	1	0.10	7	1.00	–	–	–	–	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67	1.24	25	1.79	20	1.82	–	–	6	0.86	6	1.50	–	–	10	1.67
感染性胃腸炎	431	7.98	115	8.21	53	4.82	75	7.50	35	5.00	21	5.25	33	16.50	99	16.50
水痘	6	0.11	3	0.21	–	–	3	0.30	–	–	–	–	–	–	–	–
手足口病	15	0.28	12	0.86	3	0.27	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	2	0.04	–	–	2	0.18	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	1	0.02	–	–	1	0.09	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	5	0.09	–	–	4	0.36	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.17
流行性耳下腺炎	24	0.44	13	0.93	9	0.82	1	0.10	–	–	–	–	1	0.50	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	8	0.67	1	0.20	6	1.50	–	–	1	1.00					–	–

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２、レベル３に該当するものはありませんでした。

(− : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2017年　第16週　 2017/04/17～2017/04/23 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	139	1	3	15	7	15	3	7	9	6	6	5	7	9	6	11	8	7	6	5	3

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	3	2	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	21	–	1	5	3	5	2	4	1	–	–	–	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	67	–	–	5	5	10	4	12	4	8	2	2	9	–	6
感染性胃腸炎	431	7	40	93	55	37	43	31	22	10	14	9	16	17	37
水痘	6	–	–	–	–	–	–	2	–	–	1	–	3	–	–
手足口病	15	–	2	11	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–
突発性発疹	30	–	15	13	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	5	–	–	4	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	24	–	–	1	2	2	5	5	2	2	2	–	3	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	8	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	1	1	–	–	1	1	3

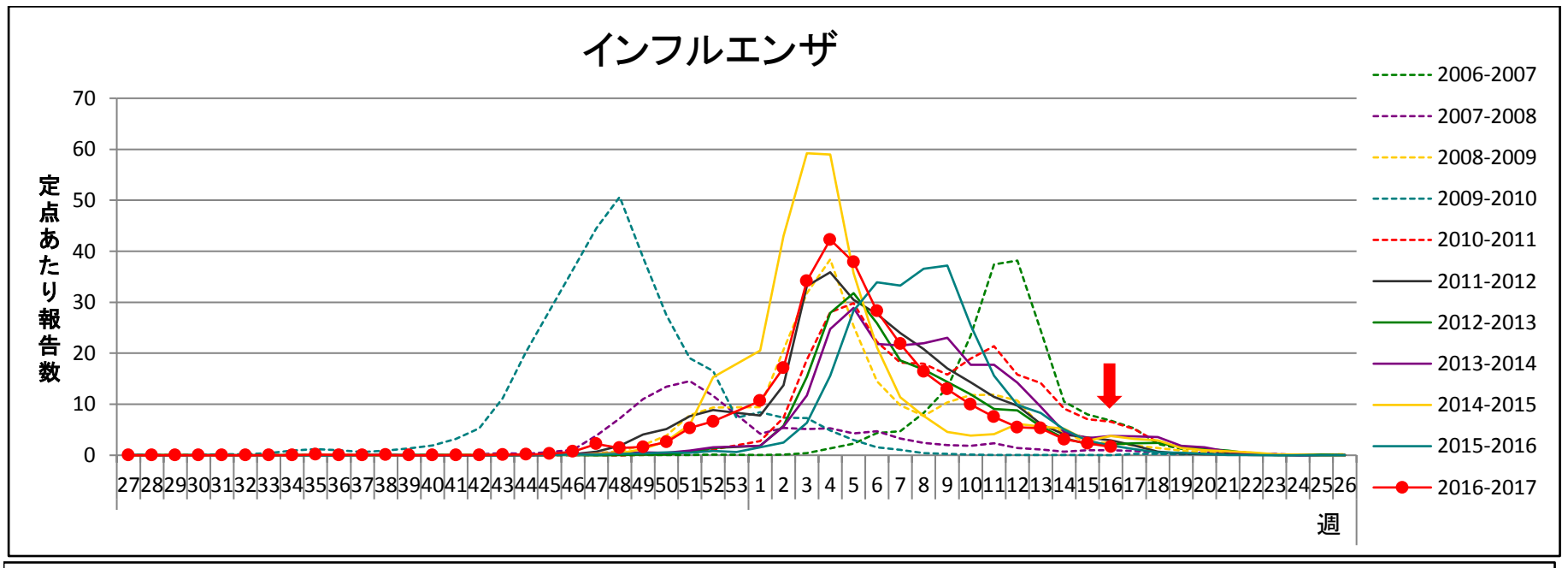
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	1	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	9	–	9	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

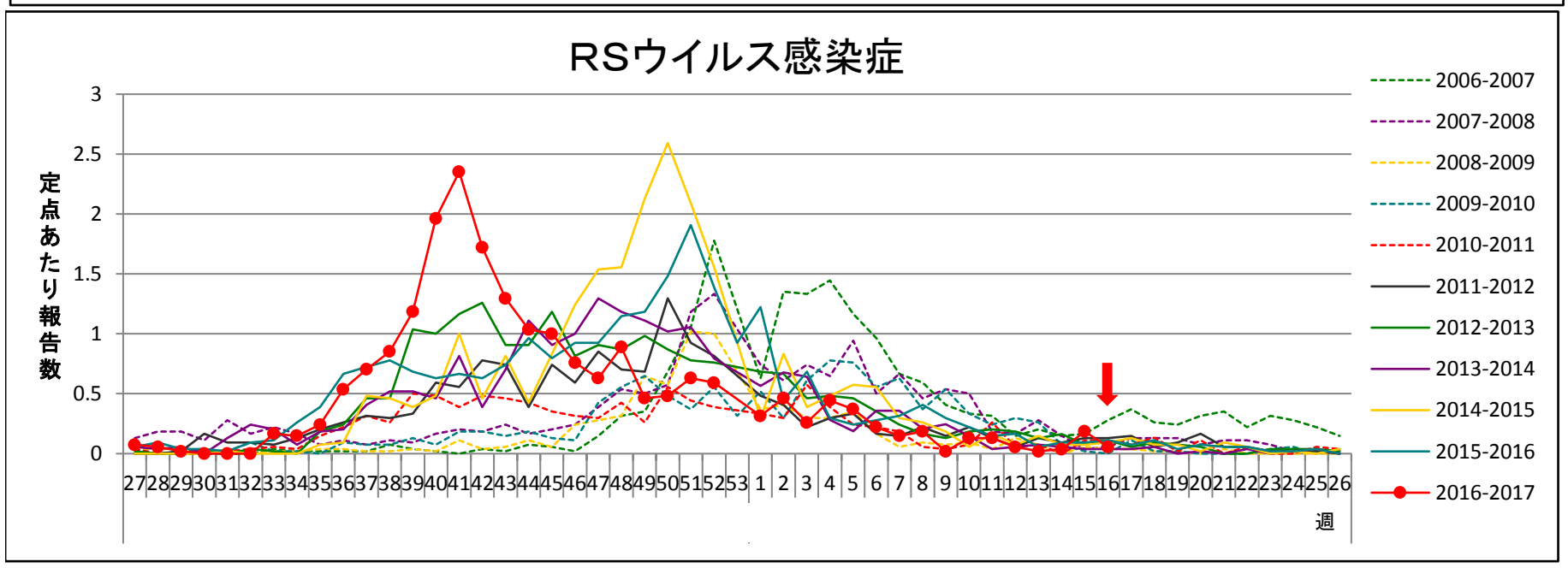
（ – ： 0 ）

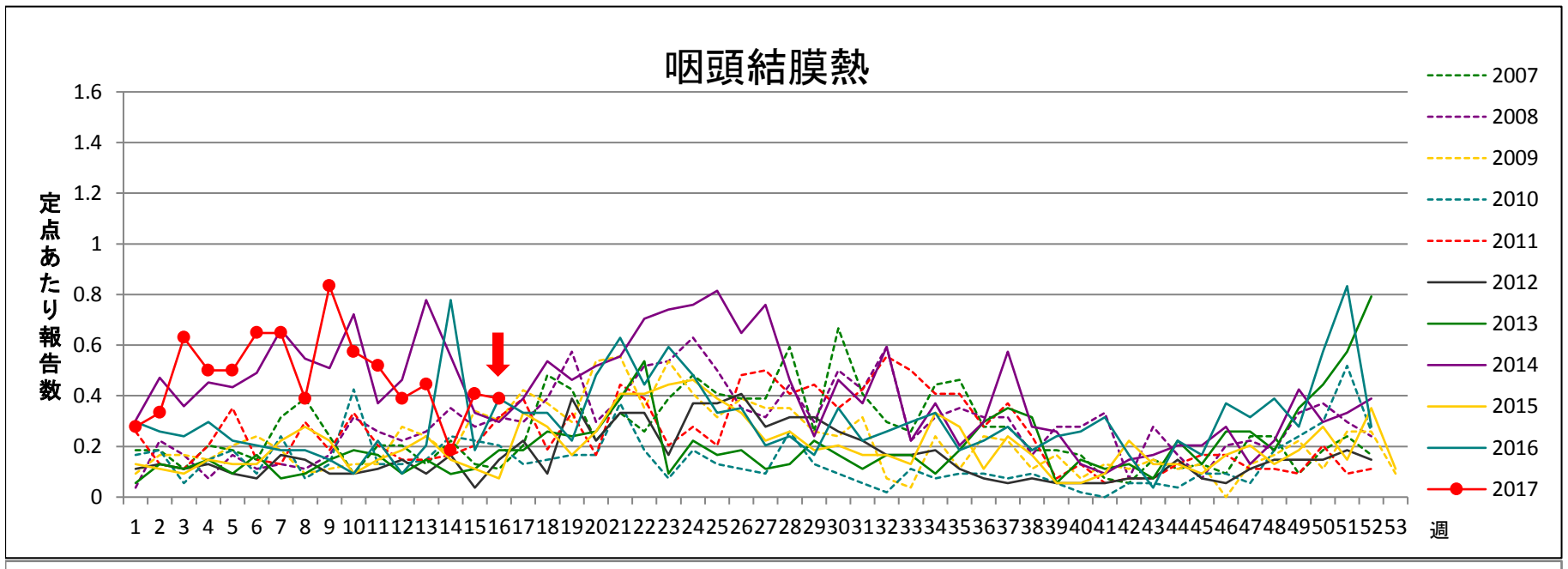
全数把握 感染症患者発生状況

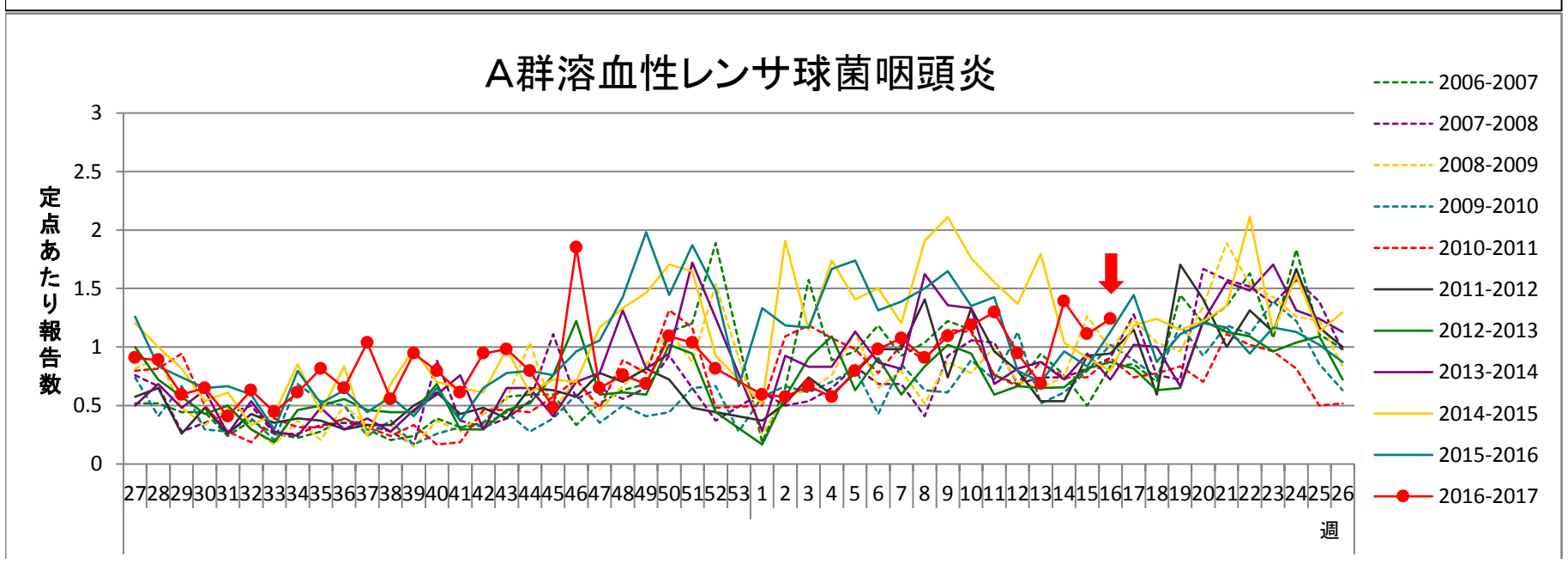
2017 年 16 週

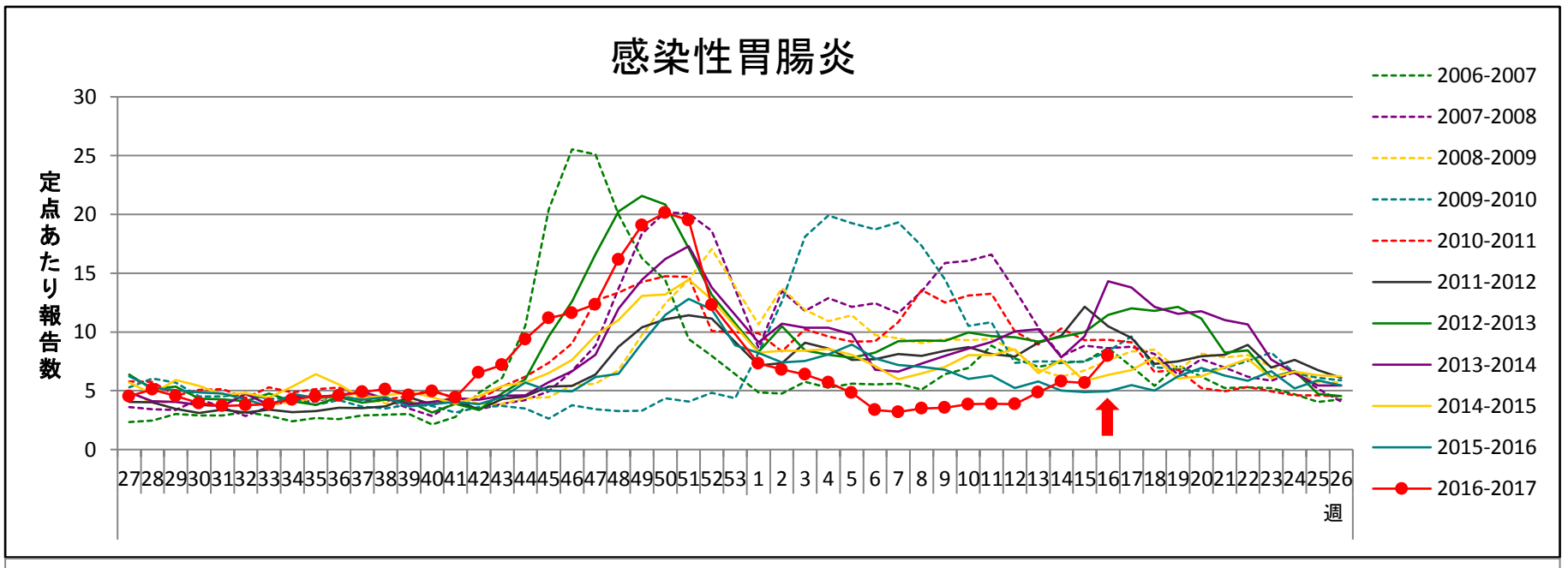
分類	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	1	109	311	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	中東呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–
	鳥インフルエンザ（H7N9）	–	–	–		–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	–	細菌性赤痢	–	–	–	腸管出血性大腸菌感染症	–	2	65
	腸チフス	–	–	–	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	1	2	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	1	3
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	ジカウイルス感染症	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	1
	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–
	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	2
	デング熱	–	–	1	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–
	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	1	日本紅斑熱	–	–	4
	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–
	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–
	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–
	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–
	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	–	3	26
	レプトスピラ症	–	–	–	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	9	18	ウイルス性肝炎*3	–	3	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	–	2	28
	急性脳炎*4	–	3	11	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	–	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	1	8	後天性免疫不全症候群	–	7	12	ジアルジア症	–	–	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	–	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	–	14	32
	水痘（入院例に限る。）	–	1	3	先天性風しん症候群	–	–	–	梅毒	1	21	40
	播種性クリプトコックス症	–	–	2	破傷風	–	–	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	3	1	風しん	–	–	–	麻しん	–	–	–
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	–	–	–		–	–	–		–	–	–

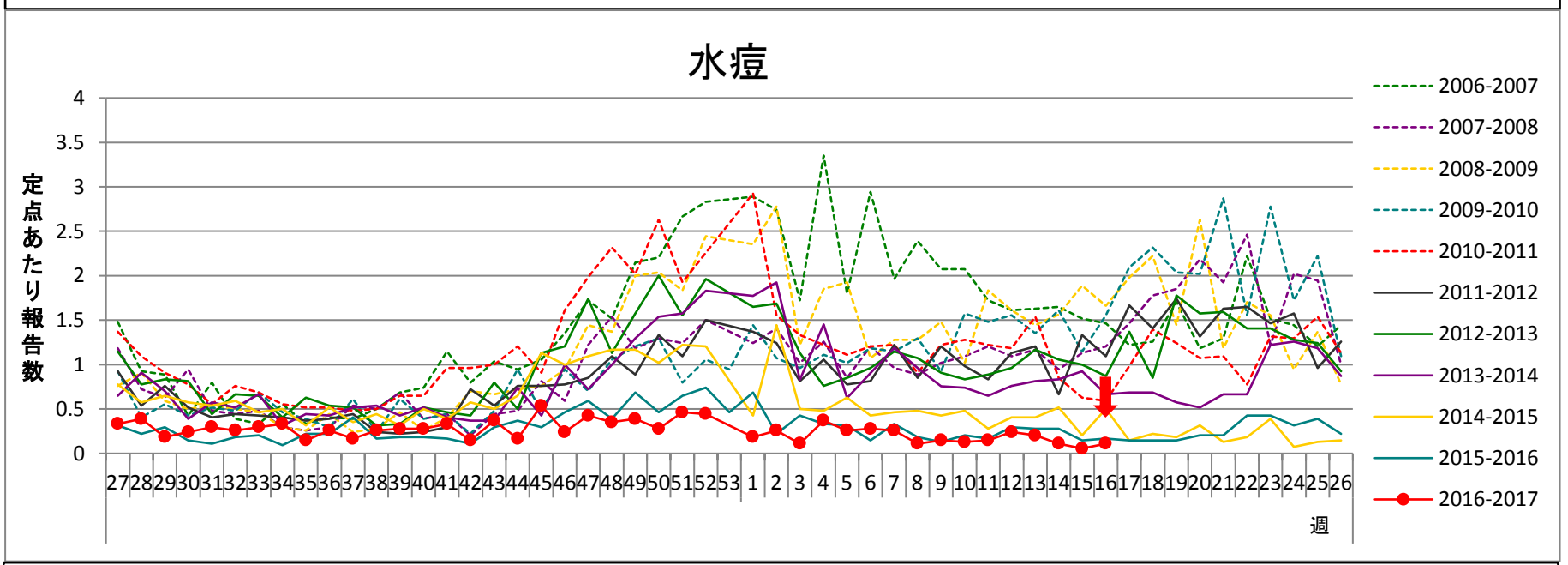

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

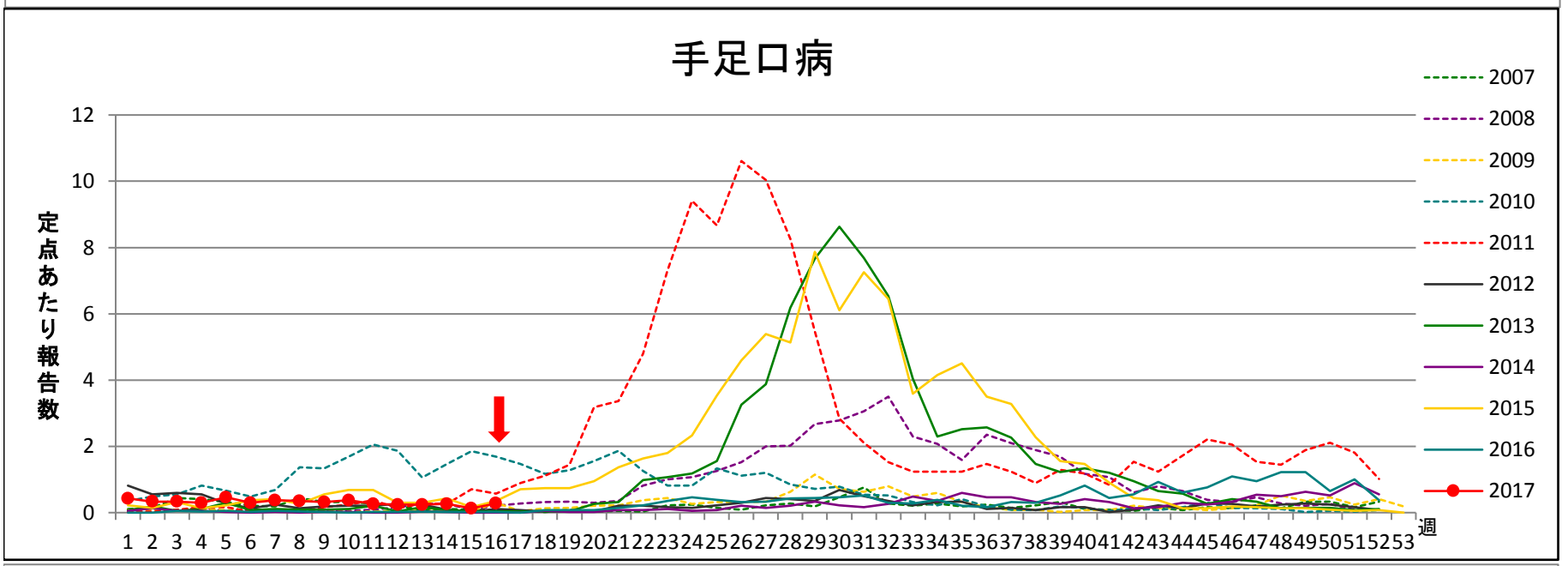

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

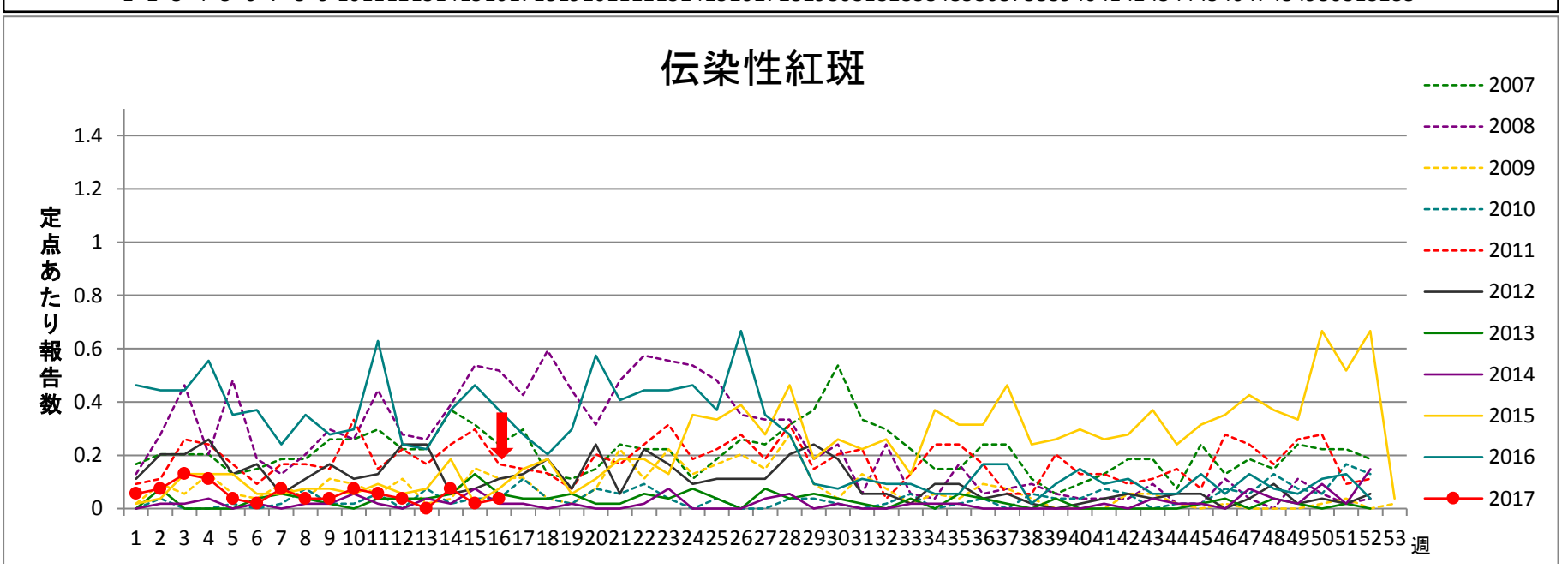

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

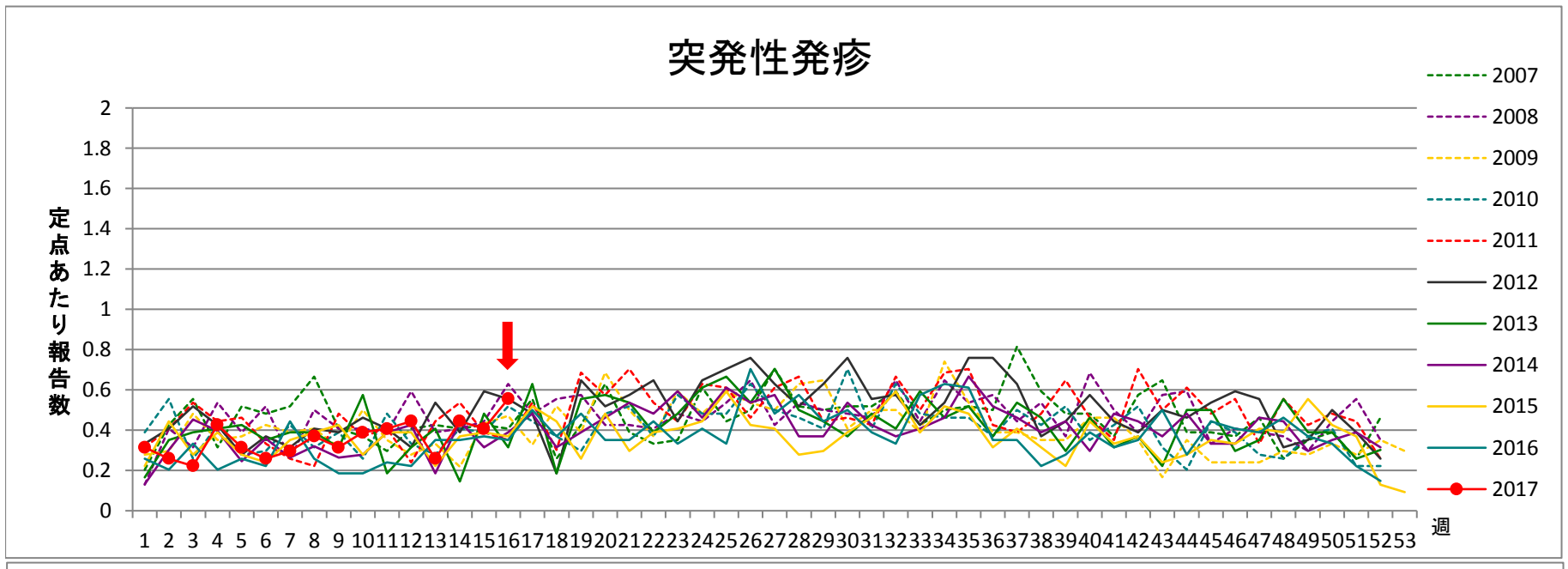

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

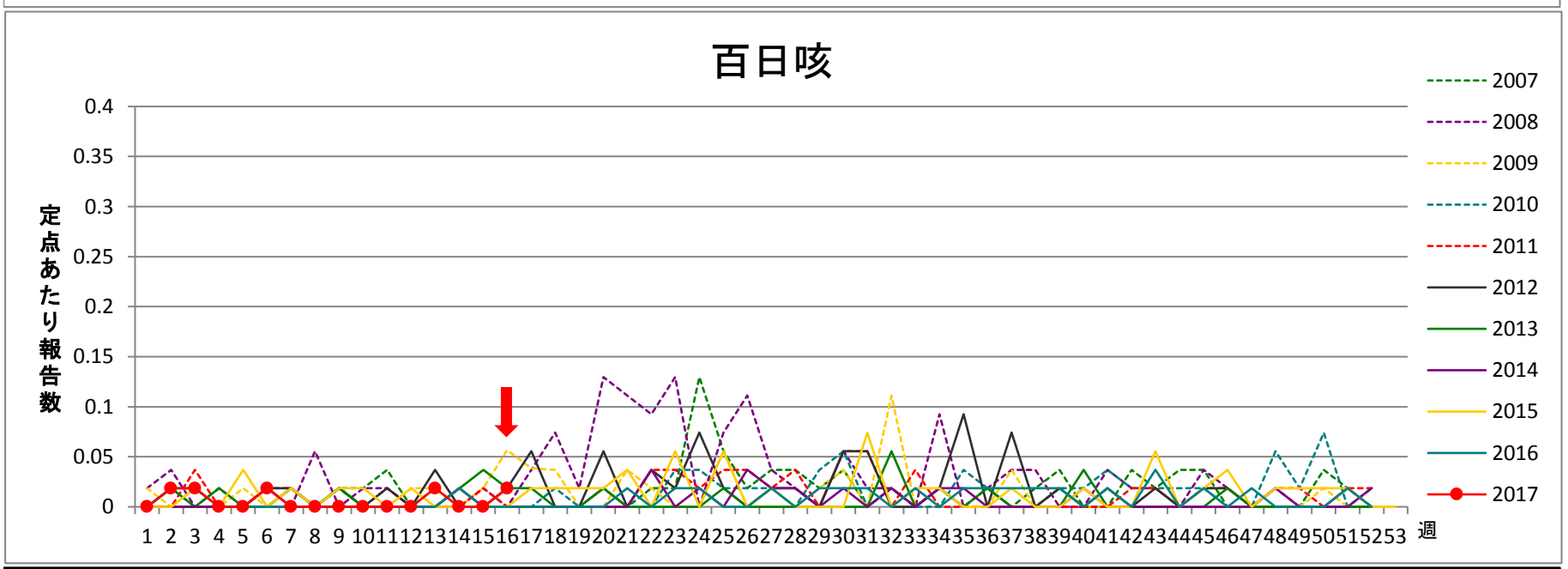

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

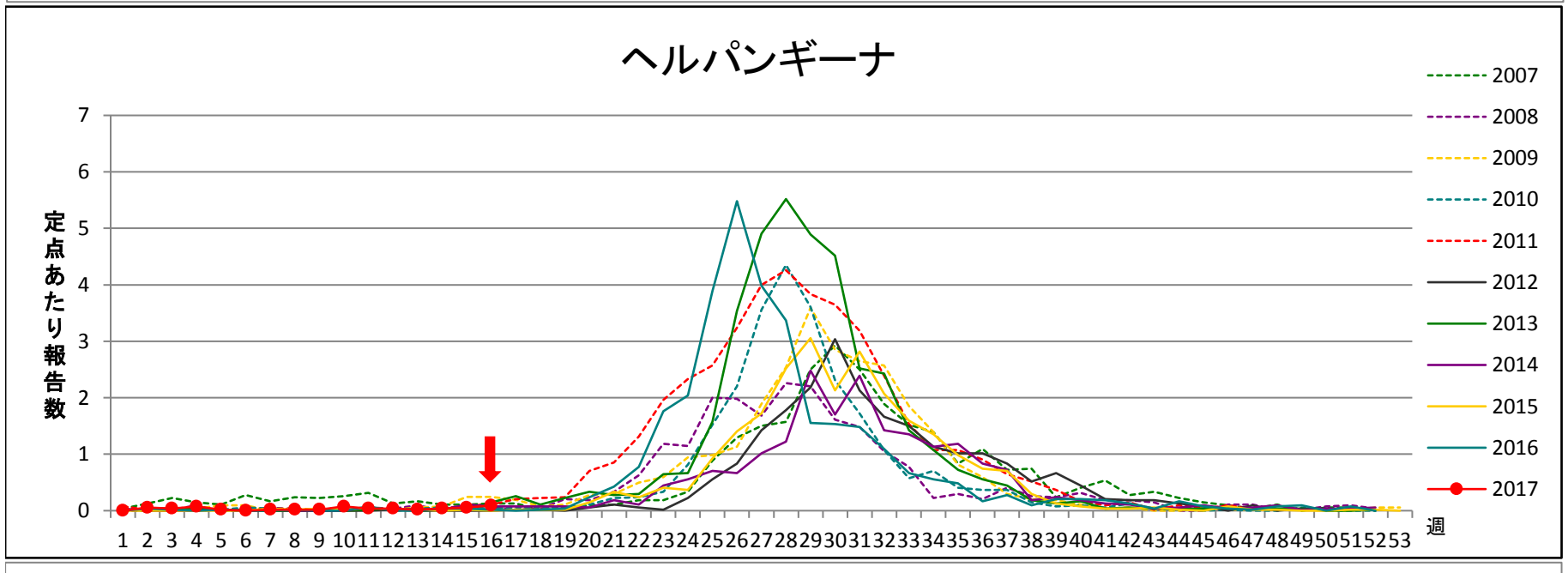

水痘
定点あたり報告数
週
2006-2007
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017

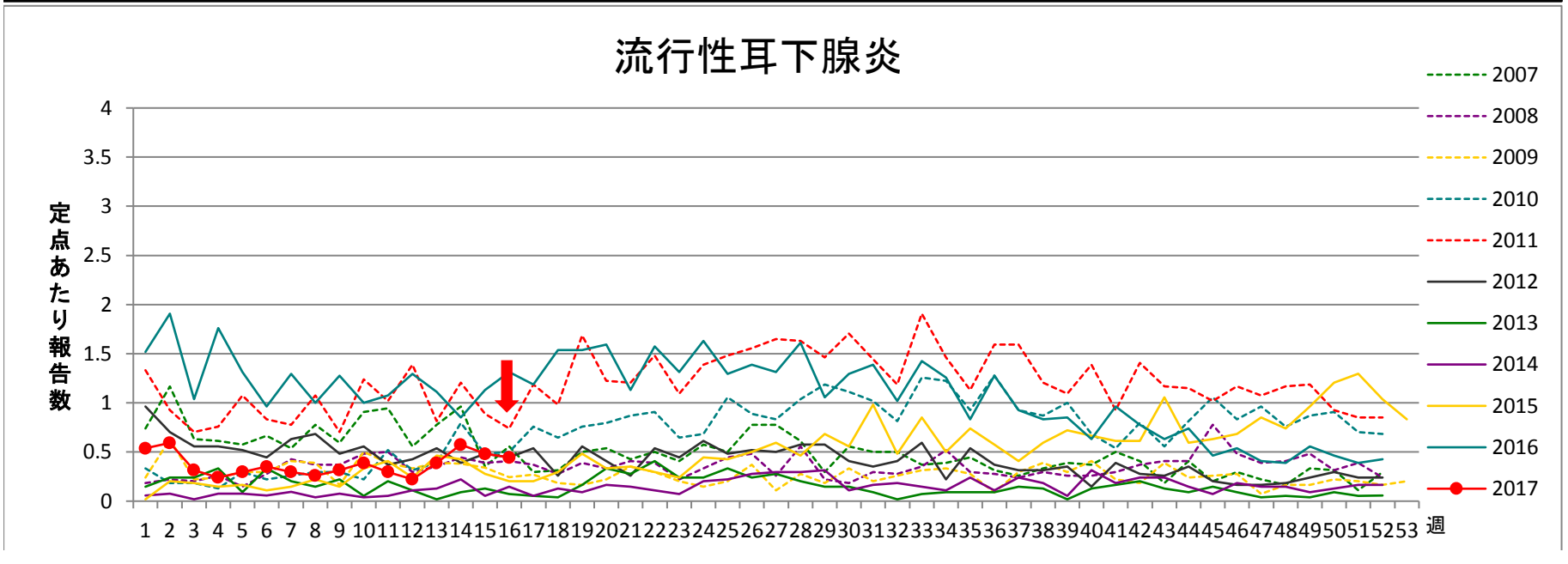

手足口病
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

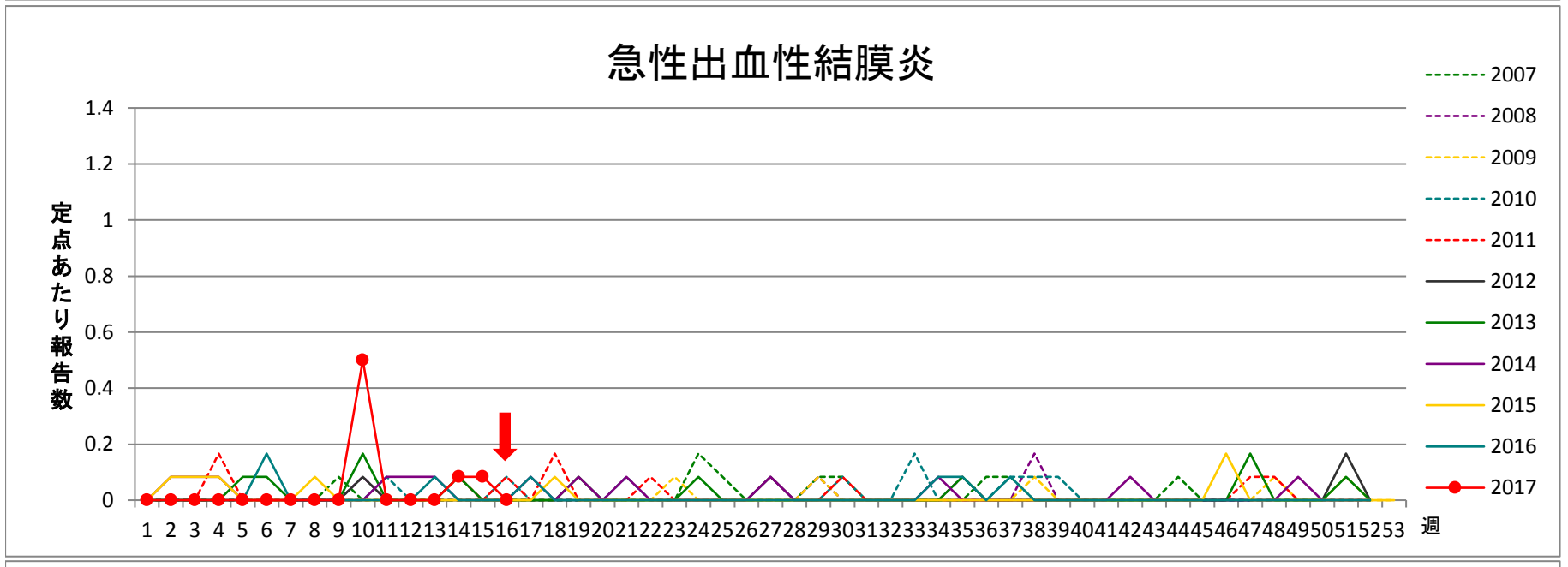

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

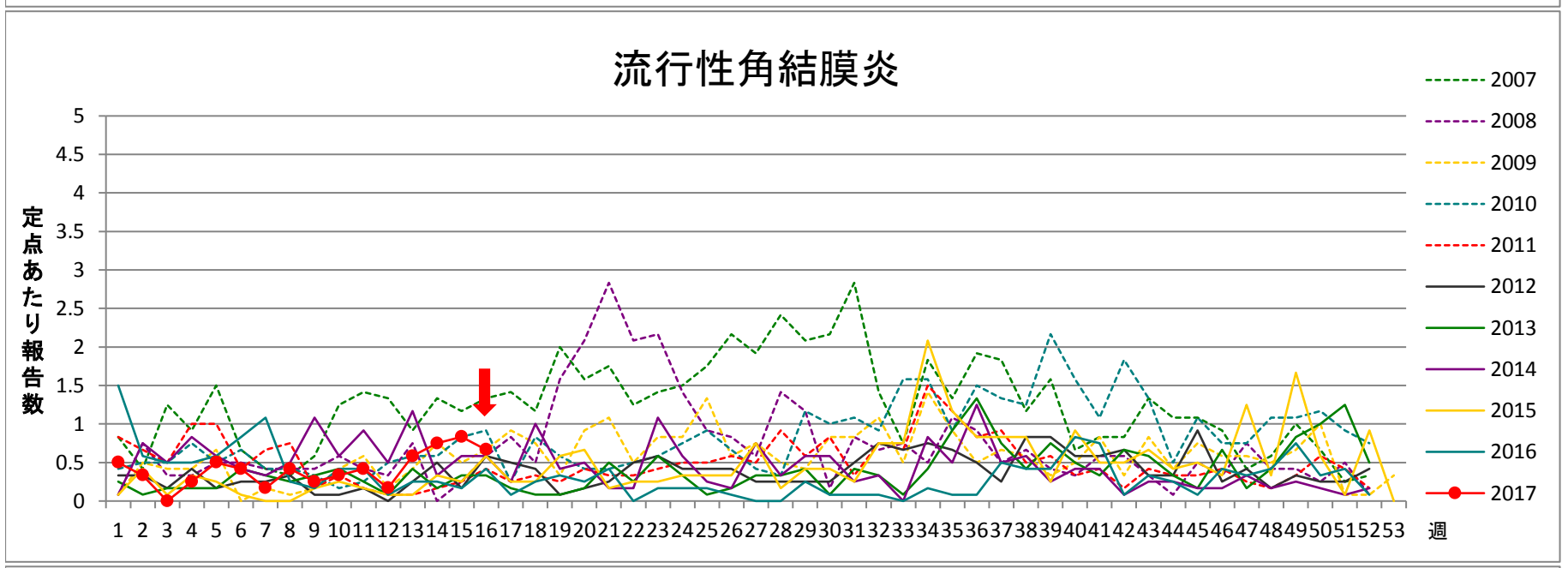

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

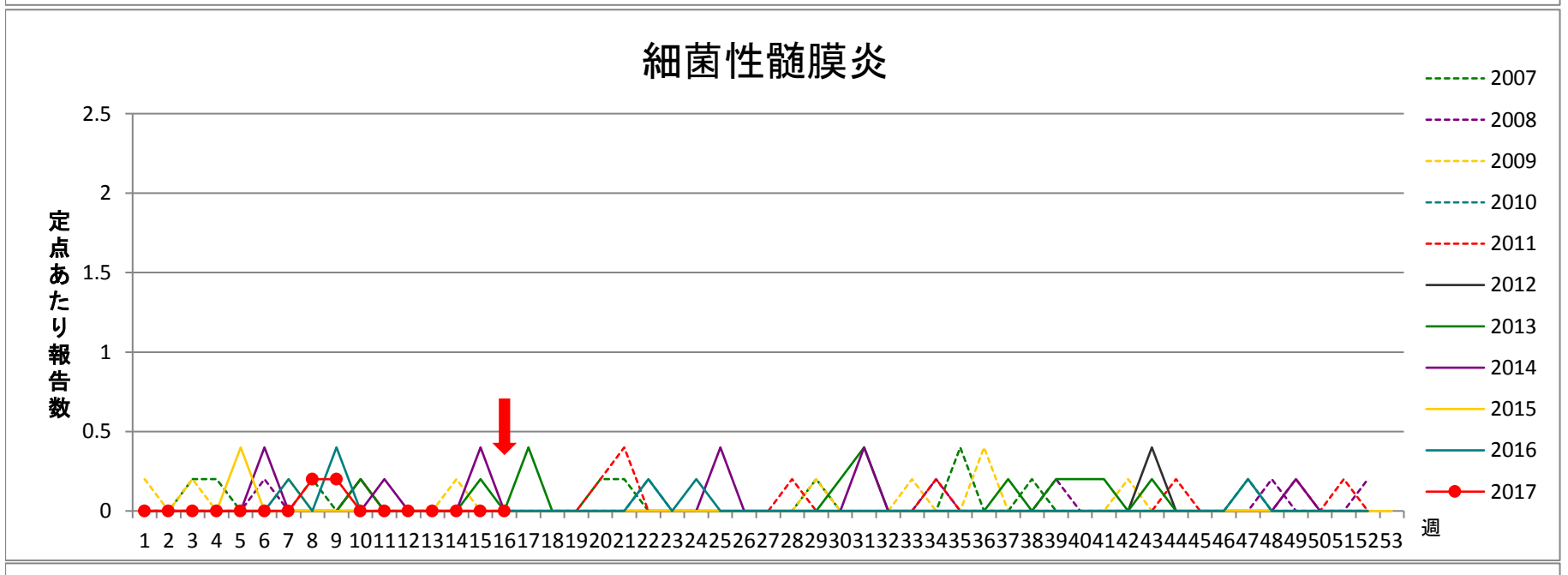

百日咳
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

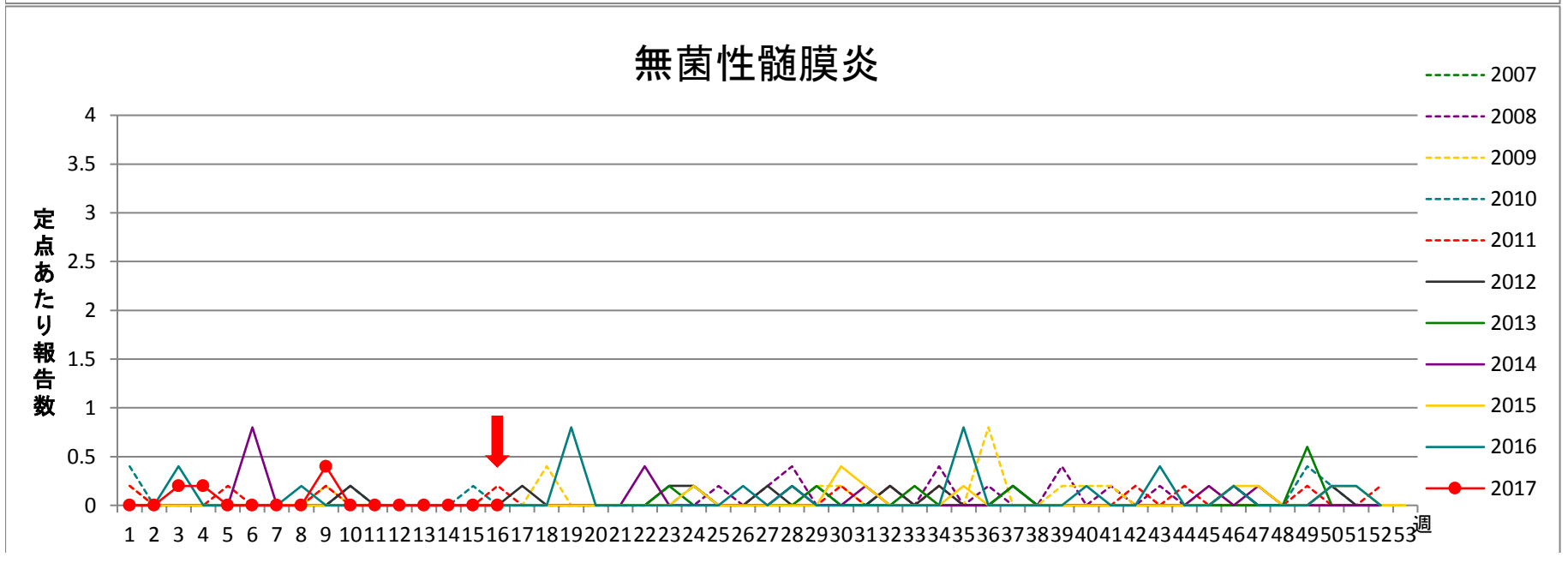

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

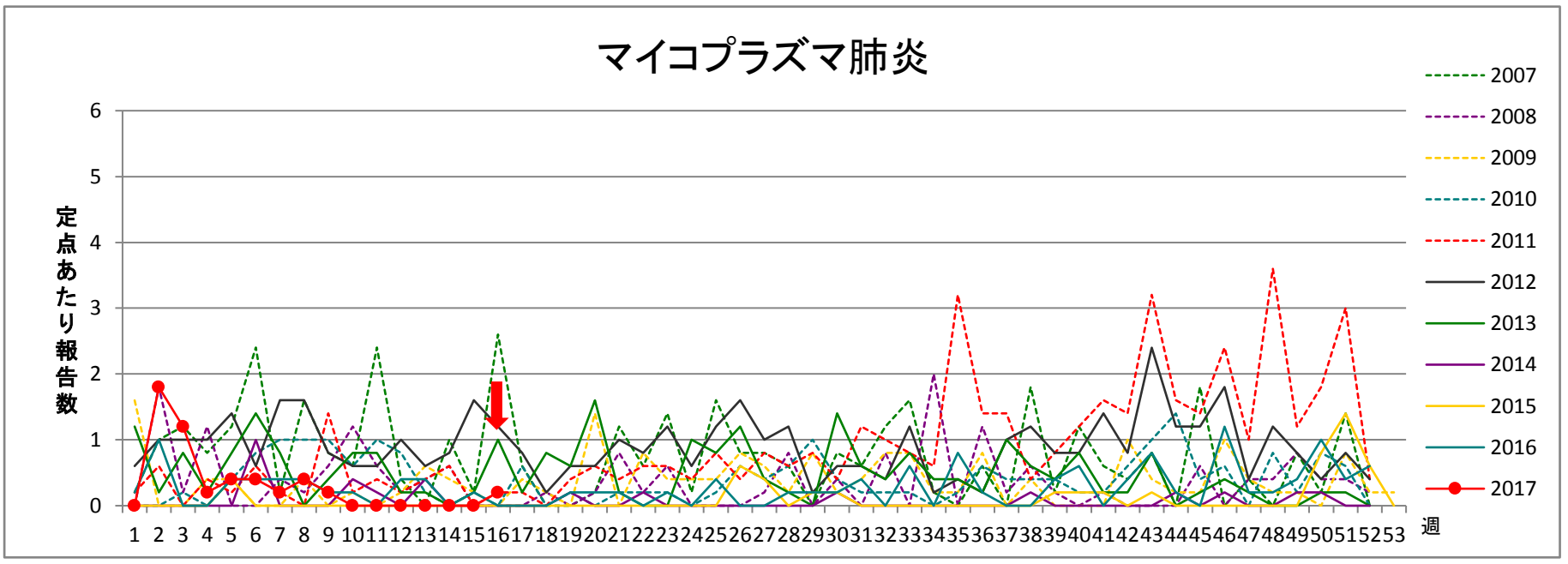

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

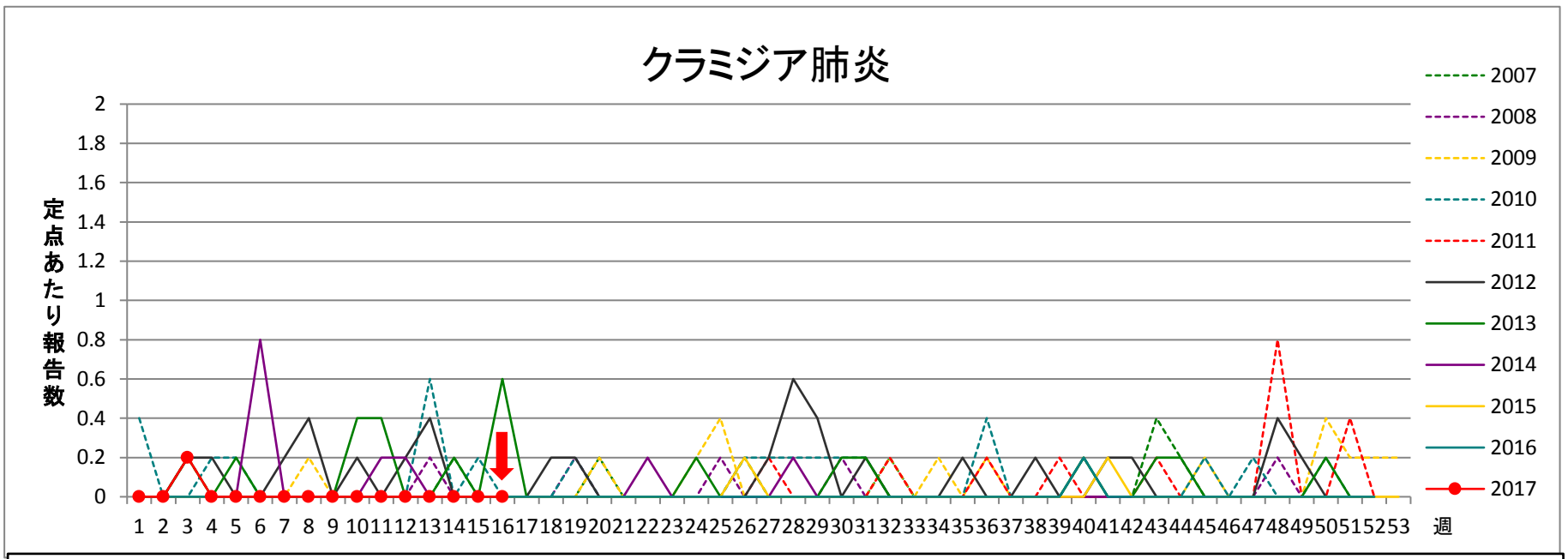

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

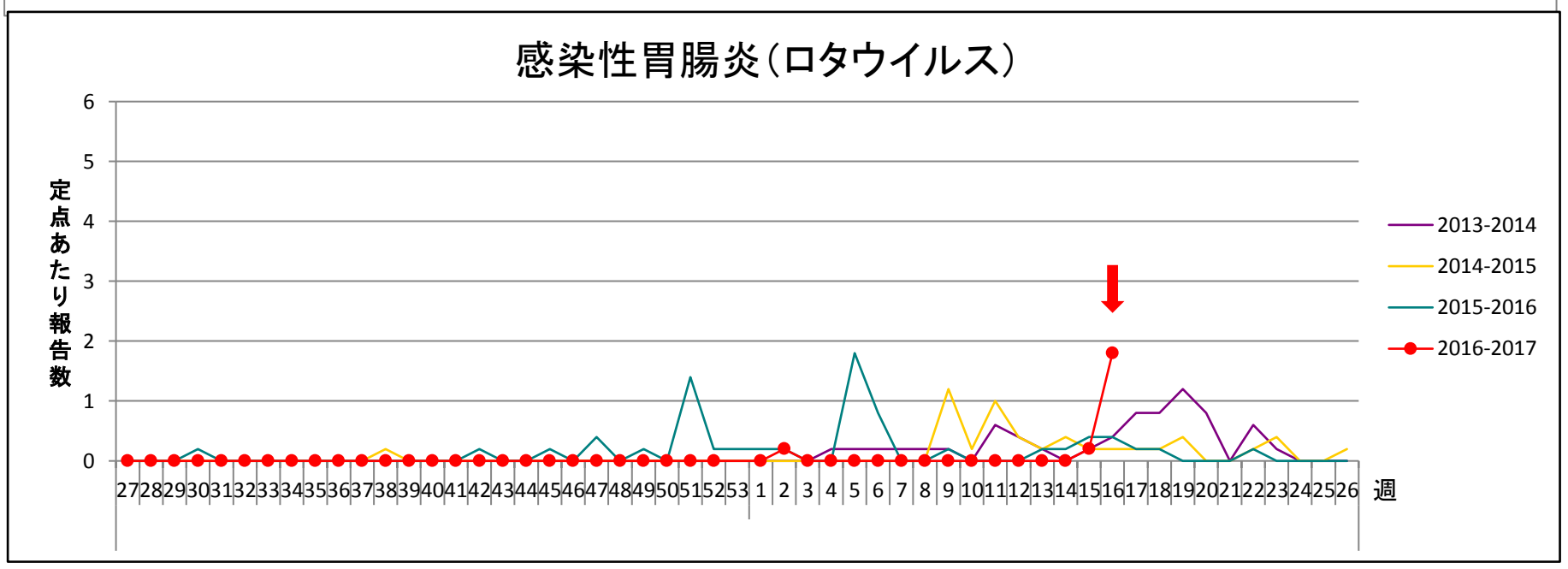

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017